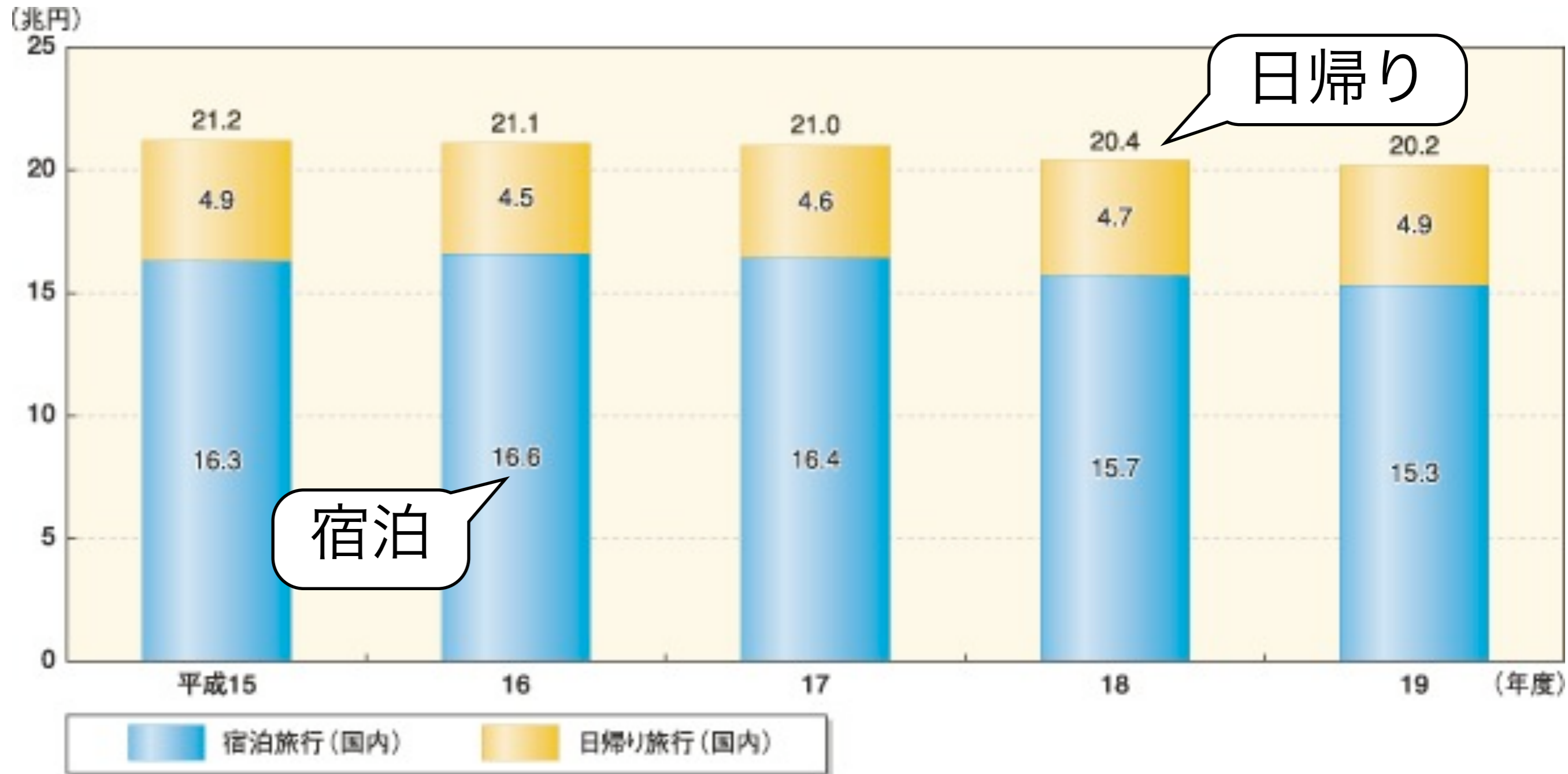


# 第3回国土交通省成長戦略会議

平成21年11月26日

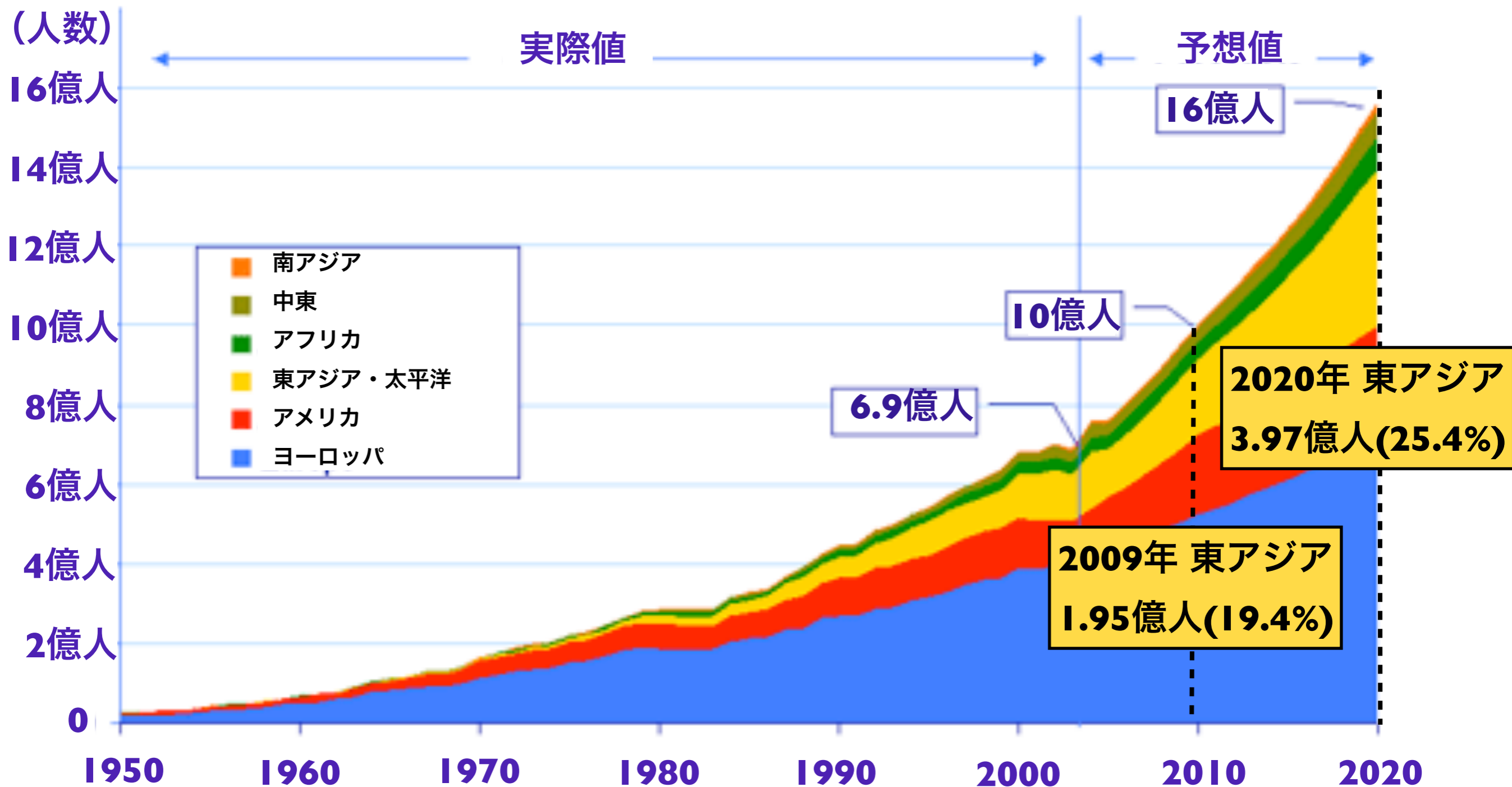
星野佳路

# 国内旅行需要は意外に安定している！



(注) 国土交通省観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

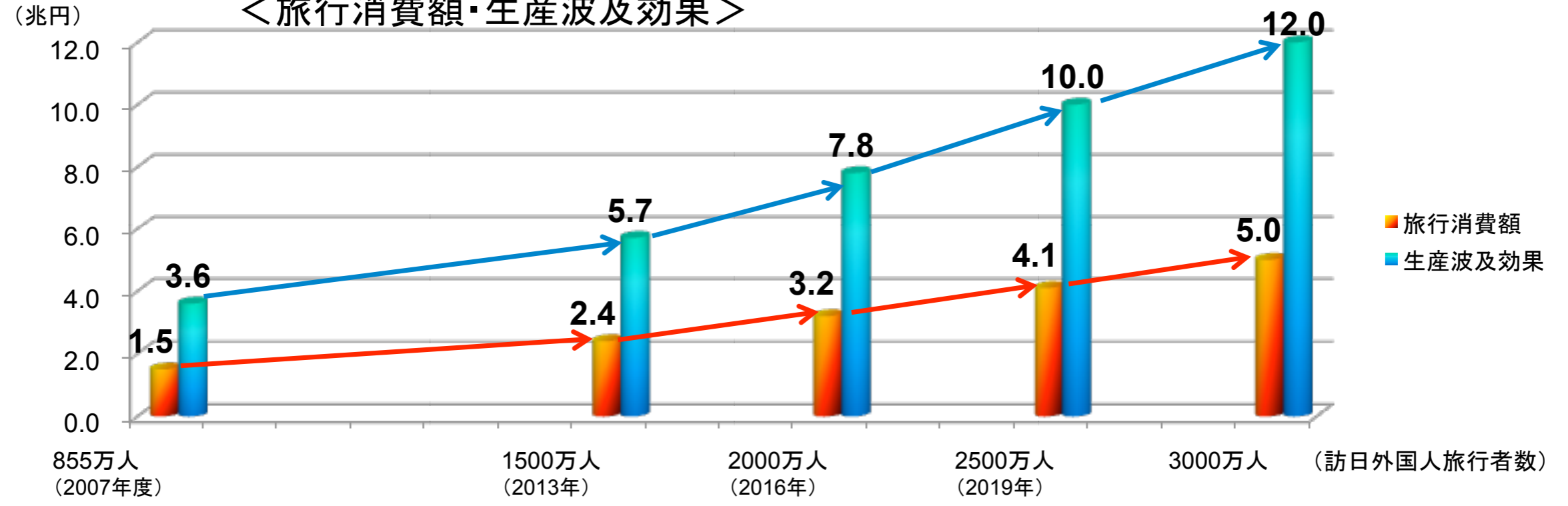
# 急増する国際旅行市場



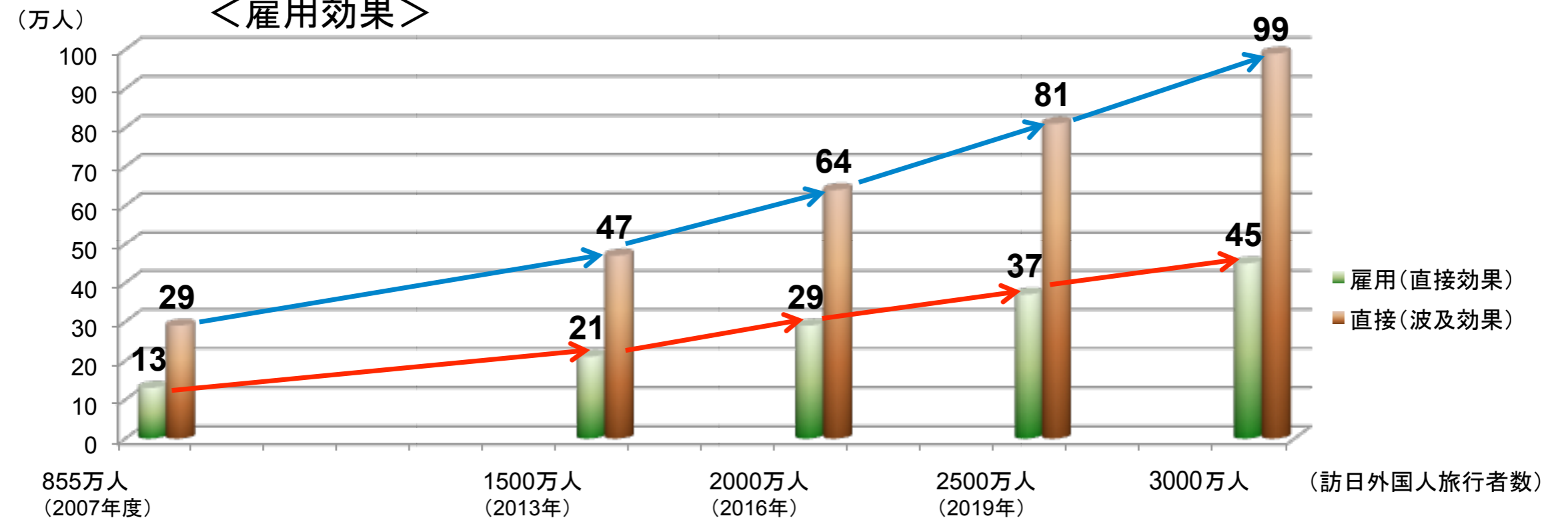
資料：世界観光機構 (UNWTO)

# 訪日外国人旅行者による経済効果等

＜旅行消費額・生産波及効果＞

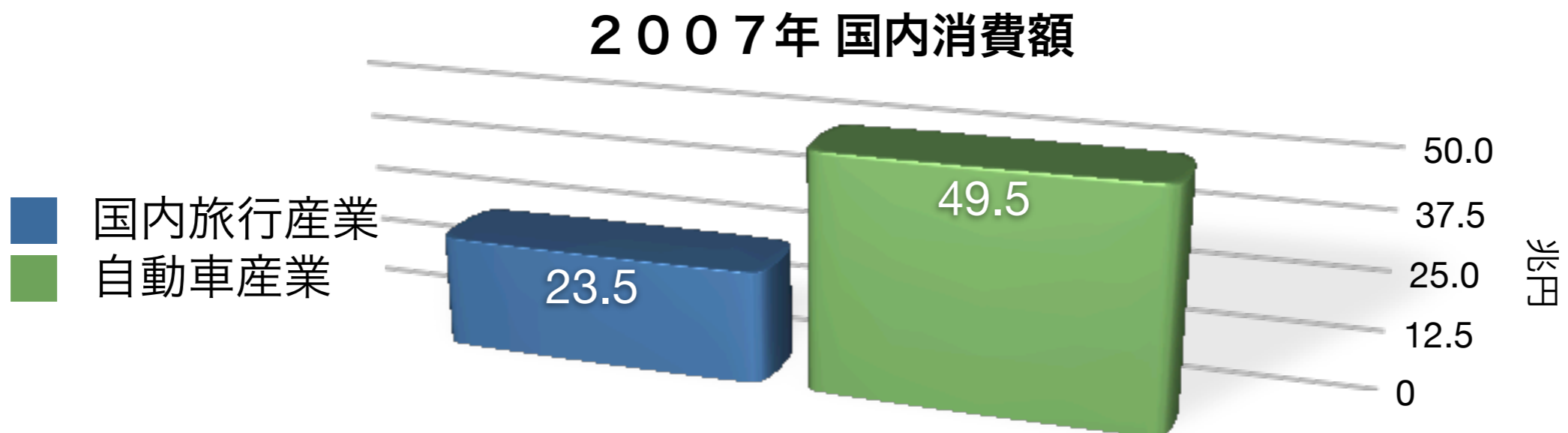
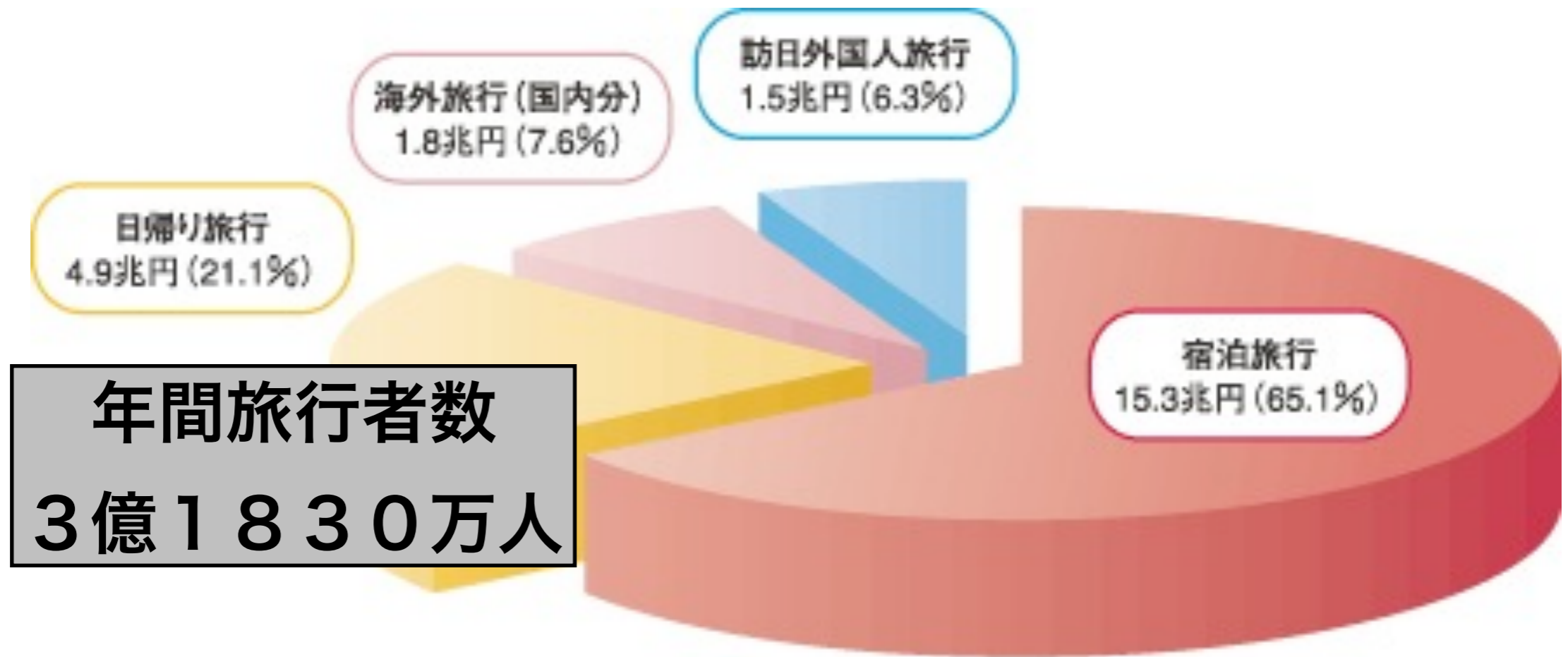


＜雇用効果＞

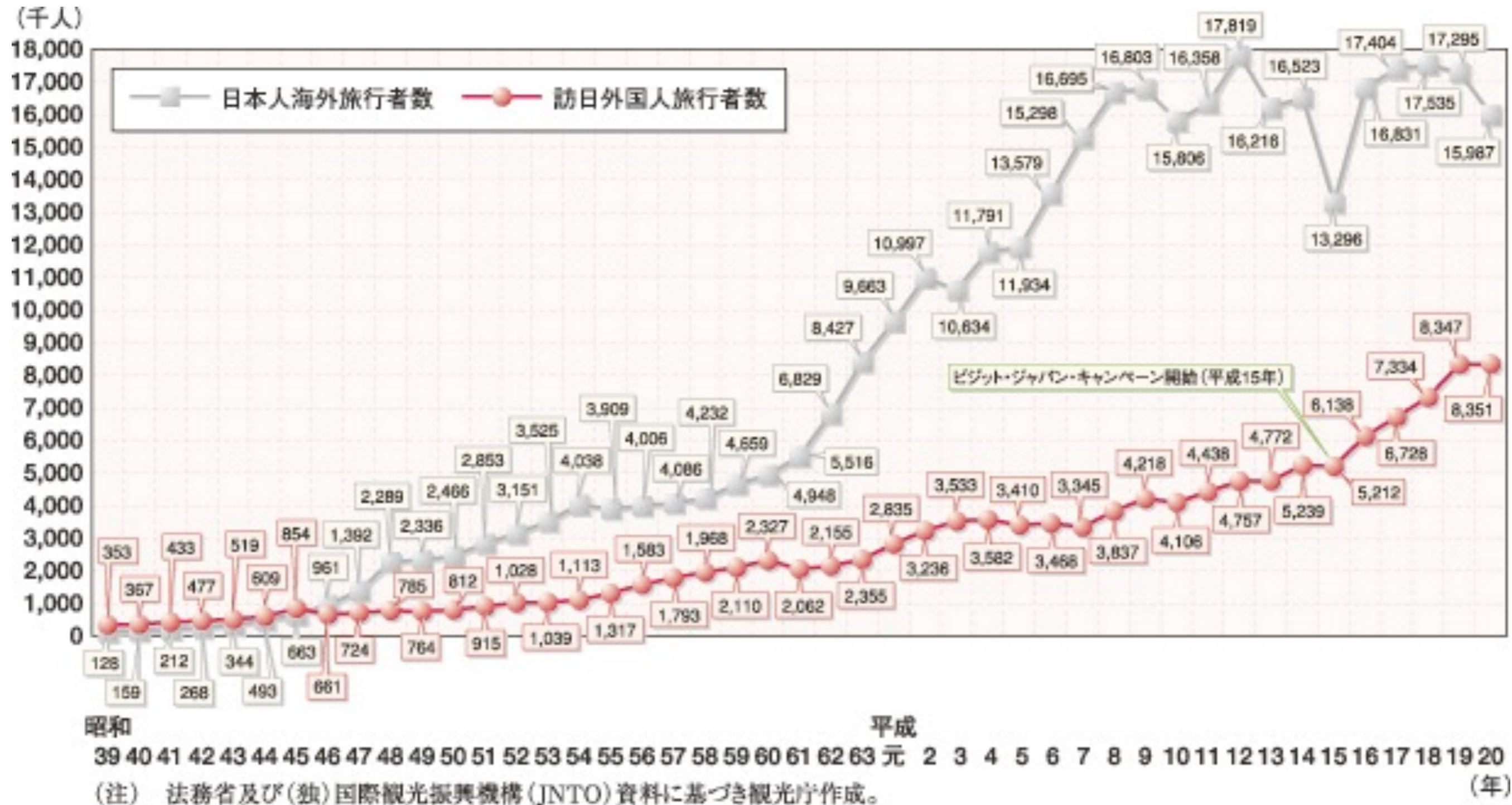


※2007年度の消費額は日本銀行「国際収支統計」による。「国際収支統計」では滞在期間が1年以上となる長期留学生による消費額等も含め推計している。  
 ※2013年以降の旅行消費額については、JNTO「訪日外客消費動向調査2007-2008」を基に、観光庁試算。  
 ※現時点での試算であり、今後大きく変更する可能性がある。

# 国内旅行市場は意外に大きい！



# インバウンドを増やす vs アウトバンドを呼び戻す



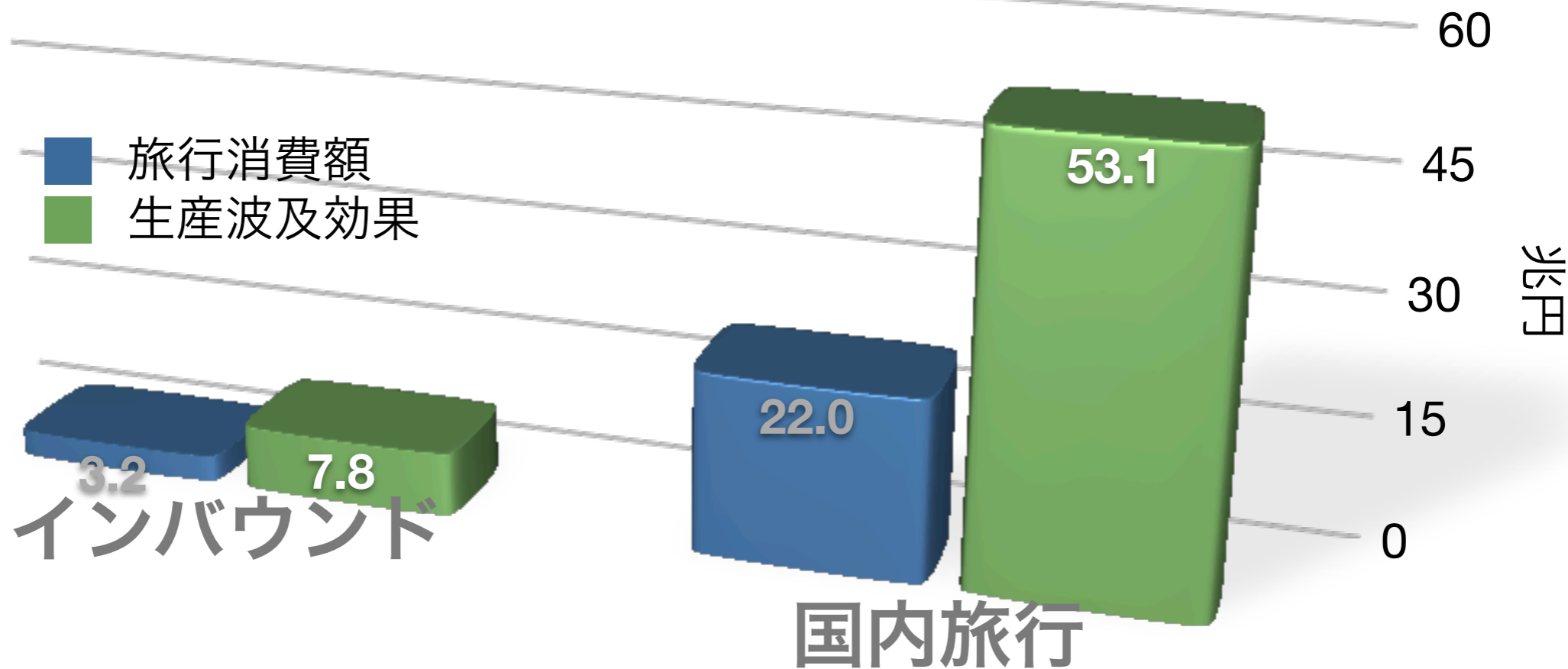
# 国内市場とインバウンド、 経済効果を比較をすると。。。。

## インバウンド2,000万人市場

旅行消費額：3.2兆円  
生産波及効果：7.8兆円

## 安定した国内旅行市場

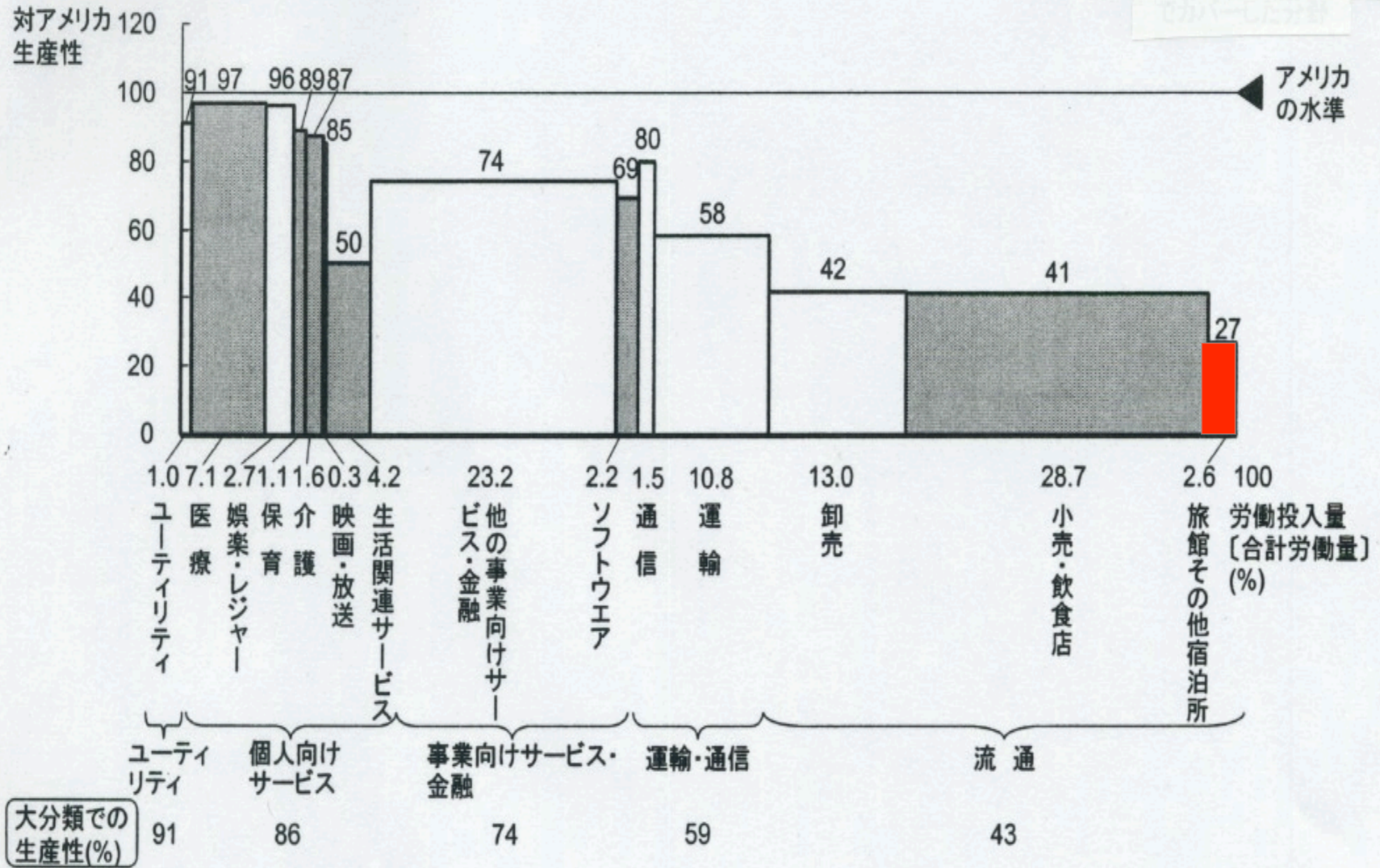
旅行消費額：22兆円  
生産波及効果：53.1兆円



直接雇用：29万人  
波及効果：64万人

直接雇用：211万人  
波及効果：441万人

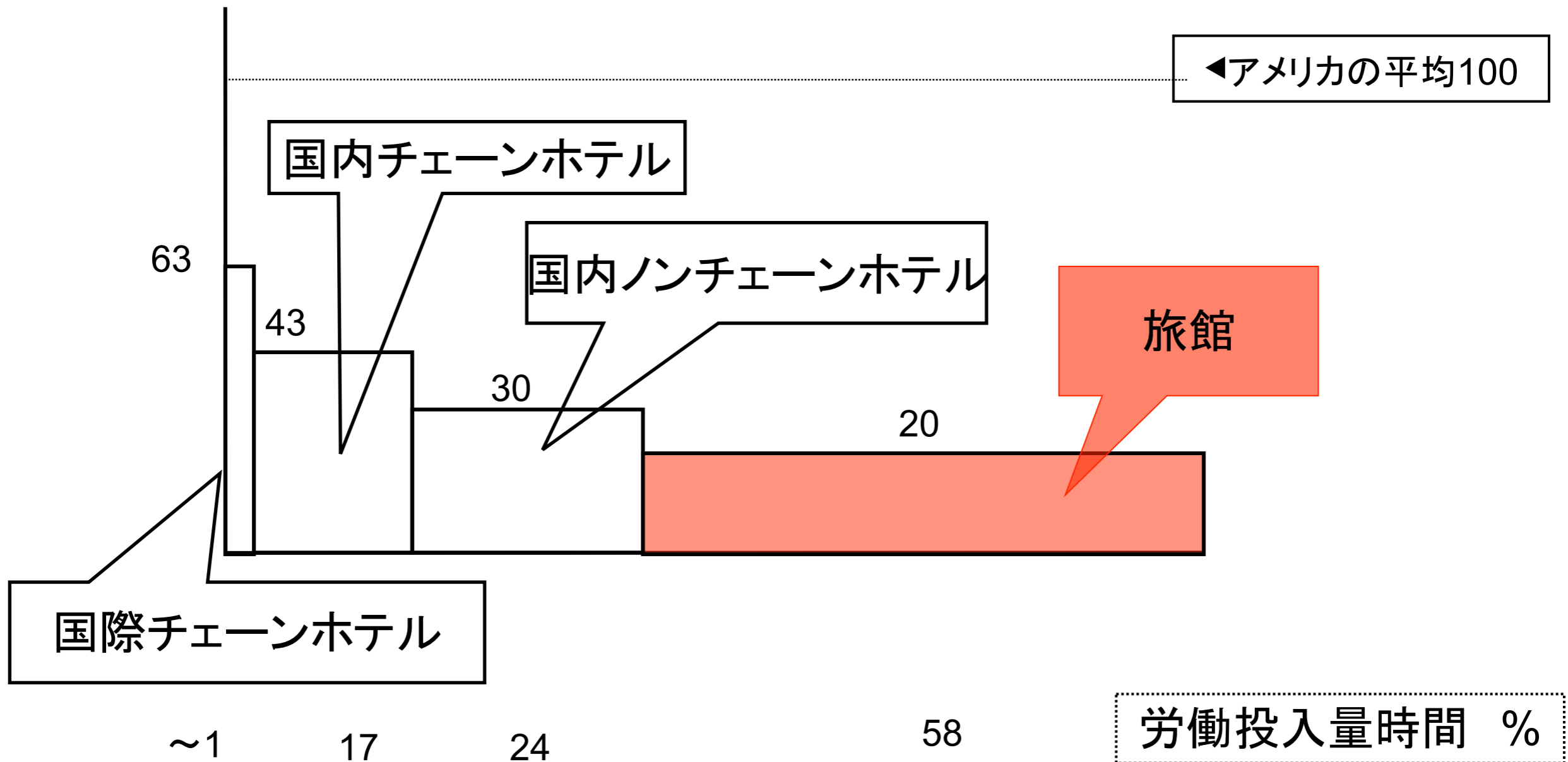
# サービス業の生産性 中分類



資料: 付属資料参照、マッキンゼー分析



# 業態別の労働生産性



# 日本の観光産業の課題

## 供給側の課題

魅力 (⇨商品力⇨集客力)

収益力 (⇨効率⇨利益率)

## 需要側の課題

繁閑の差 (⇨休みの分散)

高い交通費 (⇨LCC、高速道路)

# 地方には魅力があるのに 国内観光地が低迷する訳

年末年始、ゴールデンウィーク、夏休み、それ以外の土日

## 100日の黒字 265日の赤字

上記以外の  
平日

### 需要が集中する結果：

1. 繁忙日は高速道路が渋滞
2. 繁忙日は全ての料金が高い
3. 繁忙日は満室で泊まりたい所に泊まれない
4. **だから旅行を止めてしまう**
5. 事業者利益は頑張っても頑張らなくても同じ
6. 固定スタッフを雇えない → 優秀な人材がとれない

顕在化しない  
埋蔵内需

# だから今こそ、需要の平準化策 ゴールデンウィークの地区別取得

国内地域毎に8つの地区に分けてGWを取得すれば、  
5月1日から6月30日まで需要が平準化する。

関東の例：  
埼玉県のGWは5月の1週目  
神奈川県は5月の2週目  
千葉県のGWは5月の3週目  
東京A区のGWは5月の4週目

実はコレ  
フランス、ドイツ、フィンランド  
などではすでにやっている！

需要平準化

経済効果

消費者

混雑  
解消

交通・宿泊料金低下  
希望施設宿泊可

満足度  
向上

埋蔵内需の  
顕在化

観光宿泊産業  
の競争力

稼働向上  
& 平準化

派遣中心から  
固定社員中心へ  
サービス質的向上

頑張る  
施設は  
利益増

設備投資

建設・金融・  
農業への  
波及効果

訪日外国人集客

施設の  
近代化

ソフトの  
改善促進

世界市場  
で魅力向上

観光立国へ  
大前進

# アジア市場をふまえた需要の平準化



インバウンドが少ない時に日本人は休みを取って、

**内際での平準化**

年末年始→旧正月→春のGW→夏休み→国慶節→秋のSW  
通年で需要が平準化され、経済／雇用効果大

# その他の要調査・検討項目

- 都市計画／建築基準
- 河川／橋
- 索道／ヘリコプターの高い維持費
- 最低価格／手じまい日の内外差
- 旧共産圏からの飛行規制
- 公共施設と民間施設の競争
- 着地型観光への体制づくり

国はどの程度の安全を保障すべきなのか。